

原爆先生への感想

(川崎 陵平)

ぼくは原爆先生の話を聞いて心に残ったことが4つあります。1つは原爆は思った以上にすごい怖い物だということです。授業を聞いているだけでは怖さは分らなかったけど、原爆先生の話を聞いて怖さがとても分かりました。

2つ目は、死者の数です。原爆での死者は4万人。その時の広島市の人口は35万人。死亡率は40%ということになります。つまり5人に2人が死んでいるということです。今考えると大変なことです。

そして3つ目は、もう原爆を落とさほしくないということです。

今もし原子爆弾を落とされるのなら時のように大変なことになるかもしれないので落とさほしくないという話を聞きながら感じました。

ぼくは原爆先生の話を聞いた

(川嶋友明)

ぼくは原爆先生の話を聞いた時、たつたがた
のまず、二つ目はぼくが原爆の被害に戦争
中の風雲を知ったのも、元朝は
れど、原爆先生の言ったことが日本の
歴史の何倍もが口々に言われた。お
皮が泥の中に落ちて死んだ。おぼろげに
象に乗るまで、おぼろげに落ちておぼろげに
るまで、おぼろげに落ちておぼろげに
がたの立場にたつた。おぼろげに落ちておぼろげに
た。二つ目は原爆の被害にたつた。おぼろげに
た。話を聞いた時、百万世も救済された。おぼろげに
た。おぼろげにたつた。日本全体も焼く。原爆は自
分の目的にたつた。太陽の温度を数々
と起す。温度は、おぼろげにたつた。

原爆先生の授業を聞いて

(6-1 栗原 聡)

ぼくは17歳という今で言う高校生の若さで陸軍で班を率いて軍の仕事をしておどろきました。仕事の内容も資材を運んだり遺体を収容をして処分をするという、ぼくにははじめてたえることが出来るような仕事ではなと思いました。

ぼくはなぜ、広島、小倉、長崎に原子力爆弾が投下されたのかわからなかったが、ありませんでした。しかし、原爆先生が原子力爆弾投下都市の条件は直径5kmを超えること、平野であること、空襲がなかったこと、と説明をしてくれた。このことから原子力爆弾一発で被害をあたえられることが分かりました。さらに候補になった都市をあげてくれました。候補になった都市は広島、小倉、長崎、横浜、新潟、京都です。この中でも京都に原子力爆弾投下させることを強くおされたが、結果、原

原子力爆弾は投下されませんでした。理由は2
つあり日本を占領をしやすくするためと京都
に日本の重要文化財がたくさんあるからで
す。

広島に投下された原子力爆弾「リ
トルボイ」は重さ約47、長さ312Mあた
り、地上から600M地点のとき、直径200Mにまでふ
くれ上がり、中が100万℃、外側が7000℃と太陽の
表面よりも1000℃も高かった。地上に落ち
たときは、⁵⁰⁰⁰℃となっていた。そして、衝撃波の速
度は、毎秒470Mで音速よりも100Mも速いと
教えられました。そして、広島市の約35万人
に対し、被爆者数24万人と、半数以上の人
が原子力爆弾の被害を受けています。死者数は
14万人と、被爆者数の半分以上をいっていることが
分かります。このときの死亡率70%だったと聞
きました。ぼくは、特別授業を受けてあたり前
の生活が一番だということに気が付きました。これ
からあたり前の生活を大切していきたいと思
いました。

原爆先生へ

(秦原豊元)

ぼくはらの原爆先生の授業をうけて
この歌を書いた。

この世がロケットと白粉と田の島した。何もかも
昔のよ、手紙に書いたよ。爆弾と核の人の打ち
たしては、いと言ったからです。

先生がから、い言ったよ。い言った。でも本物
の立目は、い大さのいかなし。思った。

ぼくは原子爆弾が投下の条件があるのを
はじめにした。この世は自由なところにあつた。思った。
爆弾の名、即ちあつたこと知らなかつた。

その爆弾が太陽のよ、あつた。あつた。あつた。
そのあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
爆弾が空におちた。動画を見た。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

空におちたあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

感想

(林隆太郎)

ぼくは、原爆先生の話を聞いた時、少しこわくなりました。
人の皮がむけたツレツレだからこわかったです。

広島の前爆で14万人以上の方がなくなるとても悲しい
です。原爆の相模原や落とされた原爆の名前など、くわ
しくおしえてもらってこまなかつたです。

あんな大きな原爆ドーム(広島県産業奨励館)があんな
骨組になつていてびっくりした。原爆には三つの物が
あつてその三つは、どのようになつているかなどをくわしく
知つていい経験になりました。「原爆が落ちて爆発
した時近くにいた人は近くに太陽があるような物だ。」
と、言つていて近くにいた人がどれだけ熱がたかたか
かりました。

この経験を生かして、もっと多くの人に原爆の怖さを
知ってもらつて、もう一度と戦争をしないほうにしつた
たいです。

Handwritten text in a cursive style on a lined background. The text is written in a dark ink and appears to be a continuous paragraph. The characters are somewhat stylized and difficult to decipher precisely, but they seem to be a form of shorthand or a specific dialect of a script. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, with some lines starting with a small mark that could be a paragraph indicator or a specific character. The overall appearance is that of a handwritten note or a page from a journal.

原爆先生へ

(吉村和真)

原爆先生のお話を聞いてとてもいい機会だったなと思
いました。ぼくはそんなにもひどい原子爆弾が落とされたんだな
とあらためてすごく思いました。ひらがたれ落ちて、手をな
め前にやりて聞いたときぼくは耳をふさぎたくなるくら
い怖かったです。ぼくがもしそのときの現場にいて人の遺体を
かつてはぶと言つ指示が出たとしても自分には助け
たいと気持ちがあつてもまじと運べないと思つて、それ
だけ死んでしまつても即けてあげたい、運んであげたいとい
ふ気持ちがあつたなと思つてます。ひとつの爆弾があ
ればだけの人が、そして、あれだけの建物ごと眠らせるほど
のこの景でした。実際に見たわけでもないぼくはなが
下も歩いて聞くぐらい、本当に本当に信じられませ
んでした。アメリカはどんな気持ちで落とし、何がどんな
気持ちで見えていたのが不思議でなつたなと思つて
とてもゆるめることではないと思つてます。90分間
言つた長いよつでとても短い時間でした。最後の池田
さんの本人映像を見て泣きながら話す池田さん
は、父など伝えた、と言つた気持ちがあつても分かりま
す。もう死んでしまつたぼくのひいおばあさん、戦争のとき

の話を聞かなくても必ず「あの時の話はしたくねえ」と泣きながら
泣いていました。それと同じで、広島、長崎の原子爆弾のことも実際
見た。その現場を見ている人は多くの人が「ええ、ええ、話したく
ねえ」と言っていると思います。ほくほくええ人が話を聞いて本当に
この話を聞かなくても思っています。ええ、ええ話をたいては、家族ならに
話していいと思います。

原爆先生の特別授業

(上原玲奈)

私はこの特別な授業をして改めて原爆の怖さや、たくさんの犠牲者をおたはらわぬ事を知りました。この弱く私は先生の話を想像して震えが止まらなくなりました。いつもいつも怖かったけど、原爆をかけた多くの人はあんなに感情も思いの節に「いって生命をいばれんじやあつ。助かへる将来、重病長にかがんじやあつ。家族や友人がお亡くなりになり悲しい人。家族や友人と再会出来んや。なん...それが現実です。先生はこの現実を詳しく正確に教えてくれました。世界が平和であるために戦争や原爆は必要ないと思ひます。貴重な話しありがとうございました。

原爆の恐怖とは何か…。

(遠藤 結香)

原爆は、ただ爆発するものだと思っていたけれど、恐怖はそれだけではありませんでした。スー、スー、ドーン、私
はただただその音の際現だけで恐怖でたまりませんでした。
映像ですごくまぶしい、まぶしいなんてものではな
い。放射線が広島一体に光らせていました。皮膚がドロ
ドロに落ちていて、かけだけを残してこの世を去られて
いた人も映像で見ました。「もし自分がこんなひどい目に
あっていたらどうだろうか」と考えるだけでゾクとし
ました。この被害を受けていたのは人間だけでなく土
地、広島で人気の原爆ドームでした。この原爆ドームは
現在世界遺産に登録されています。原爆ドームは
原爆が落ちた時の人の様子が像で見れたり、原爆につ
いて説明がありました。原爆の事が学べるのはいいけ
れど、本来ならそんな物があるのは非常に悲し
いことだ、と感じました。「原爆なんて存在しなけれ
ばいいのに、そしたらそんな人がせくならなく
て済んだのに」と素直に思いました。でもそんな
怖さを知らなくても手の動作や声で私たちに一生
懸命教えて下さった通称原爆先生には、いかに

感想(原爆)

(川口世梨)

私が原爆先生の授業を受けて私は、平和の
とりで"を築くと同じ様に原子爆弾、戦争を絶対
にしては行けない"と思いました。

ゴーン...ピカでみんなすごく怖がって2回目のゴーン...
と言った時に耳をふさいでいる人が増えてい
て当時はその怖さの何十倍も怖かったんだろうな
と思いました。

一瞬目が飛び出ると言う事は私には、
想像が出来ませんでした。

私は、この時代に生まれてよかったなと思いま
した。

原爆先生の話聞いて

(小林 彩日葉)

私は金曜日、原爆先生という方の特別授業を受けました。今まで、広島と長崎に原爆がおちた日などが知らなかったけど、今回のこの授業で今まで知らなかった、原爆がどんなにおそろいものなのか、どんなに大変で苦しかったのか、少し分かった気がしました。実際に体験した、被爆者の方には分からない怖さもたくさんあると思います。でも、その気持ちも少し分かったのがうれしかったです。

私が一番、おどろいたのは、原爆の音です。臓が止まるかと思いました。池田さんのちゃんもくが始まった時、トキトキが止まりませんでした。何が起きるのがよく分からない時、大きな音が聞こえました。この時が一番びっくりしました。原爆がおちた時の音がこんなに大きいとは思いませんでした。

他にも池田ちゃんのお父ちゃんが体験した話をたくさん聞かせてもらいました。手をつないだ時、皮ががずるとはなかったという話を聞

おしりもあしりもあした。

もし東京で原爆が落ちたらどうしようもない、そんな
ろくな事を考へておりました。

最後に見せてもらったお父さんの日記本を見て、
とても切ない気持ちになりました。

原爆の怖さを改めて知る事ができました。

この授業を受け、広島にある「原爆資料館」
に行って写真などを見て、もっと詳しく調べるお
たいと思っておりました。お田さん、今回は原爆に
ついてたくさん教えてくれてありがとうございました。

原爆先生の授業を受けて

(佐藤 涼花)

原爆先生の授業は、教科書を読むよりも、と衝撃的にリアルに、私に原子爆弾の恐ろしさを教えてくれました。「死者十万人、被爆者十四万人」と教科書や資料集を読むと、原爆のページには右のような内容が書かれています。しかしこの数字は今まで私の頭には入って来ても、心までは届きませんでした。

ところが、今日の原爆先生の授業は、原爆先生がお父さんの手記等をもとに書いて出版した本を一部読んで下さるものでした。実体験者の恐怖が驚きは、原爆先生の言葉によって私の心へ真、すぐに入ってきました。

原爆がもたらした酷たらしにありさまを思い出すから、一刻も早く原爆ドームを取り壊して欲しい」という意見が原爆ドーム保存反対論の中にあつたのにも納得しました。戦争を体験した人には失礼かもしれませんが、一発の原子爆弾は戦争よりも残酷なのではないかと思いました。戦争の被害者の多くは兵隊の人なのに対し、原爆ではそんなことは一切関係ありません。ただ「そこに住んでいた」「そこにいた」

だけで、身を焼かれてしま、た人は大勢いたと思、います。
被爆した人々の傷の様子を原爆先生が語り出したとき、
私は思わず耳をふたぎそうになりました。それほどまでに、
むきむきと言葉では言、い表せないような悲惨だ、だから
です。更に、ビデオで原爆先生が、お、しゃ、ていた内容も、
聞いただけでぞろ、と鳥肌が立つような感じがしました。
授業の最中、でも、原爆先生は何度も「人のよ、うな」「人とは、
言、えな、いよ、うな」という表現を使、いました。その理由を、
ビデオの中で言、ていたのです。「もう、人とは言、い難、い姿を、
して、こゝ男女の区別も、でき、ず、こゝの場、面を語ると、ま、
今は、ま、原爆先生のお父、さんは、こゝらえ、ま、れ、ず涙を流、して、
い、ました。爆、発から七十年が経、た今、でも、鮮、明に当、時の記、憶が、
よ、めが、え、こゝる、と、い、う原、爆。私は、原、爆の恐、ろし、た、を一生、ま、ま、
な、い、で、お、こ、う、と強、く思、いました。

今回の授業のタイトルは、「⁷⁰⁰⁰の少年」というものでした。
私は、これが何を意味するのか最初は分かりませんでした。
しかし、原爆先生の言、ていた通り、じ、つかり話を聞、いて、こゝる、し、
だ、だ、と意味が分、か、て、ま、りました。原爆の爆、発直、後の
表、面の温、度は約、七、〇〇〇度、でした。また、原、子爆、弾の、名、前は、
「リトルボーイ」。直、訳すると、「少年」という意味、にな、ります。
⁷⁰⁰⁰の少年、は原、爆の、こゝと、だ、た、の、です。

どんなに科学が進歩しても、現在も地球上に五、千、年、突、ある、と、い、う核、が、
ほ、ん、た、ら、な、に、限、り、人、類、に、本、当、の、意、味、で、の、平、和、は、訪、れ、な、い、と、思、い、ま、した。二、度、と、
あ、ん、な、酷、た、ら、し、い、こゝと、が、起、こ、ら、な、い、よ、う、に、核、保、有、国、は、一、刻、も、早、く、核、を、手、離、し、
本、当、の、平、和、は、核、よ、り、ま、は、る、か、に、高、価、で、あ、る、と、い、う、こゝと、に、気、づ、い、て、欲、し、い、で、す。

原爆先生

(鈴木りな)

私は、原爆先生の話を
きいて、原爆の怖さと
うさを知りました。

実際に体験したわけじゃない
けど、きいてるだけで
怖かったです。

原爆の勉強をしている時も
怖いと思っていました。

実際にきいてみて、勉強
している時とちがって、もっと
怖かったです。

今回、話してくれて、怖さを
知れたのが良かったです。

原爆の事をバカにしてほ
いけなさいと思いました。

「原爆先生の特別授業」感想

(高橋 麻阿里)

今日は八坂小学校に原爆についての特別授業をしてくれてありがとうございました。

広島原爆のことについて普通の授業では分からないことを知ることが出来て良かったです。原子爆弾が落とされると後遺症が残ることや、原子爆弾が落とされる候補などを知れて良かったです。原子爆弾が落とされた後の軍隊の行動などを聞き原爆が落とされるととても大変なんだと思いました。改めて原子爆弾の恐ろしさ・怖いことが分かりました。

池田義三が17歳で軍に入り原子爆弾が落とされたときに広島県のために、死体などを処理するなどすごいと思いました。

そして今日は八坂小学校に原爆についての特別授業をしてくれて本当にありがとうございました。

原爆先生

(野口 桃^サ化)

私は原爆の授業をして心に残ったことがあります。
二つ目は原爆の怖さです。いっしょの光をあびて話
したのころのがいとも怖くて目を閉じてしまっていたの
でした。私たちは動画を見て話をまじりして
怖にけれどもその場には人では怖がりに思っ
てました。
二つ目は人の皮むきかきかすに話を死体を
背中におろして話してです。人の手の皮がはがれ
てしまってもグッとして自分の目で見るの
は怖くもありません。想像するだけでも
いとも怖がります。もしも私の手の皮がはがれ
てしまったり相手の手がはがれてしまったり
したら怖くもありません。死体を背中におろ
してこの話をグッとしてもし私に
も背中におろしてはならぬと私は思います。命令
はあつたが、私はあつたところをうかがえら
ないところをうかがいおぼえ、つづけると思っ
て。それには人や動物などの死体を見るのもつら
いので私はこの話を聞いて怖くて心に残りま

しに。

私は、原爆のことを思ひ出し、心もあせり、

田にいます。原爆は怖いですが私たちの知らない

所でみんな頑張っています。心からお願いしに。

原爆のことをおしえてくれてありがとうございます。

ごちがいまして。原爆のことをぜひに

りあれませんか。

原爆先生の授業を受けて

(増田 愛花)

十二月二十二日金曜日に、原爆先生の授業を受けて、原爆の本当の恐ろしさについて知りました。戦争、十国同士で争うことは、世界のほとんどの人が知っています。しかし私達が生まれる前の時代は、戦争は正しいこと、戦うことは正しいこと、今でいえば狂った教員が広められていました。その結果、人々の尊い命が何十万もつぶされました。教科書では、あまり細かくはのべていませんが、授業ではいつも同じ日中で生活していた人々は、二に原子爆弾が落ちるとは考えませんでした。でもあのリトル・ボーイで人々の日中は二われ、爆発した近くには人達は一瞬で消え失せてしまったそうです。二のことを私は初めて知り、何とも言えない気持ちになりました。ただ二つ落としただけで、形もなくなってしまうというのは、怖いだけでは言えない恐怖でした。原爆で、体全身大やけどをし皮膚がただれて赤く染まった肉がはみあがっている姿を、原爆先生のお父様が見て、ホッとして「兵隊さんたすけて、兵隊さんたすけて...」と言っていたことを聞いて、

この人達は重傷をたっても生きようという力がある
のだなと思いました。もし私が同じような立ち場にな
たら、いそもつ楽になりたいと思ってしまうかも
しれません。私にはどこだけ痛いのが分かりませんが、
この人々はともかく美しいと涙で感動しました。
戦争をする人から生まれるのは、絶大な悲しみ、
苦しみだけです。一人一人の命はどれも重く、尊い
ものなのを私はじじり考えながら泣いてしま
した。今の大人達もこれから大人になる私達も、二度
とこのようなことが起らないようにしてあげたい
と思います。生まれる人々はどれも美しい人なの
を、私は知るべきだと思いました。

原爆についての感想

(山口 絢)

社会の授業で習ったときは原子爆弾について深く考えていなかったけど、今日よく考えることができてと思います。8月6日広島で起きたこと、8月6日からの9日間について、くわしく教えて頂きました。

原爆のこわさは、想像をはるかに超えています。

私がこの授業の中で一番心に残っていることは、

人口(広島)35万人中、被爆者数24万人、死者数14万人、死亡率約40%ということ。長さ約3m、重さ約4tの原爆1つで40%の死者を出すのは、とてもこわいことだと思います。

太陽よりも温度の高いものが、600m上空に来るのは「あつい」というレベルではないと思います。

それが実際に起き、死者が多く出たということを見ると、とても悲しくなります。

原爆先生は、長さや大きさ、重さやまよりなど!

細かいことまで教えて頂き、とても勉強になりました。最後に見せていただいた池田義三さんの言葉は、

心に響きました。

池田真徳さんが書いた、「広島の日々」という本を、
もう売られてはいないけれど、読んでみたいと思いまし
た。また、実際には原爆ドームや、広島平和記念資料
館に行くと、もっと多くのことを学べたいと思いまし
た。

原火泰 先生の話聞いて原火暴は
こわいことなんだとあらためて知り
ました。もし北朝鮮せんが日本の
とごかにミサイルを落としても
また被爆者が増えないでほしい
です。みんなにこう言うことがあったと
知ってほしいです。まだまだ長生きでき
るおさない子たちも死んでしまった
から原火泰は全体に良くないと言うこと
がすごく分かって二度と起きてほしくない
と思いました。

14万人の人が死んでしまったのが
すごく悲しいしその家族の人もそれ以上に
悲しい思いをしている人がいるので日本も日本以
外の国にも落としてほしくないです。6-1 渡邊 結音

原爆先生の授業を受けて

(中田 晴仁)

戦争のおそろしさがよく分かりました。

原爆先生が入ってきて、青木先生がしうがいたあと、15秒ほど静まりました。先生は最初に主人公の話をして、トラムかんにゆりかかたあと、先生はマイクを鼻に近づけた。「ヒュー、ヒューヒュー」5秒ほど立ち、静かになたあと、「ドーン」先生は、さげんだ。みんなおどろいていていた。その後主人公は広島を中心地に行き、たくさん人間がいたという、全身やけどして、皮がはがれていたり、手をとると全部皮がはがれ、想像しただけでもこわかった。たぶん、ほか想像しより、こわいと思う。

そして、いたいを焼く作業、はき先代、トラマになるほどおそろしいすがた。それになれてしまった。どれだけなれるということがこわいか。帰入りきねたおた小女が生き続けた。命の大切さも、すごく分かった。最後に見せてもらった、映像。泣いていた。見出すだけで泣いてしまうほどのこわさ、今でも頭に火焼きついています。

今も原爆はあります。原爆一つで、国一つ変わってしまいます。世界には、1万発以上あります。これから原爆、隊機一つな世の中が創れればいいなと思います。

原爆先生の授業を受けて

(長束 舞)

今回は、貴重な体験をさせていただいて、改めて戦争の悲しさなどを知りました。

まず、一番に感じたのは、もう二度と「戦争」ということをしてはいけないということです。原爆先生のお話を聞いて、授業だけでは教えてくれない、原爆のおそろしさや本当の「戦争」というものを知れたと思います。また、先生の父、池田義三さんの日記をもとにしたお話で、現実的だったし、原爆投下前、後の池田さんの感情や周りの風景、音、匂い。その時にしか感じられないことなども教えて下さいました。

そして、私が一番おどろいたのは、原爆先生が「原爆投下時の音を声で表した場面です。その時の息の音から、いきなり「ピカーン」という音がして、とてもおどろいたけど、あとから考えれば、その時は、もっともっと大きい音がしたと思うし、目の前がま、白になったと思うし、本当に、原爆というものはおそろしいのだなと思ったし、やっぱり、二度と「戦争」ということをしてはいけないと感じました。

今回の体験をして、何度もくりかえすようですが戦争、原爆のおそろしさを改めて感じて、戦争で亡くなられた方へとてもかわいそうだし、悔しいことだなと感じました。

原爆先生の授業を受け?

(柳井 沈 樹)

ぼくは、原爆先生の授業も受けず、ビックリしたことがたしさんあつたし、失礼もあつたこともあつたけれども、原爆が太陽よりもあつたことせ、広島、長崎以外にも候補になつた都市などいかに知られてよかつた。

その中にも、ぼくが、いかにこのことしたのは、広島に原爆が落とされた時の死者の数が、14万人たつたことであつた。これによつて、ぼくは、原爆が、どうもおそろしいことが分かりました。もう一つは、うげま波の強さが音速よりも速かつたことであつた。音速は、毎秒340m たつたのに、うげま波は、毎秒440m たつたことか、ビックリしました。ぼくは、このことがいかに分かりました。

ぼくは、原爆先生のお言葉を聞いて、今までになかつたような経路を正しくせよとつたので、ぼくは、この

至らな経験と心算に生きていたってか

原爆先生の授業を受けて

(和田 美波)

今、私たちの中で原爆を経験した人はいないでしょう。

私は今回、原爆先生の授業を受けて、改めて戦争のおそろしさについて学習しました。

国の領地を広げたいがために始めて、世界中に広がり、原爆が
ようがされ、そして終戦。原爆によって出た多くの死者達。しかし、先生
のお父さんは、小さな「せま」が重なる原爆からのかわる事ができま
した。軍から出た命令で広島市内での生活を送っている時に出会った、
痛々しい姿の人々たちは、必死の思いで生き延びようとしていたが、
最後にはみなさん死んでしまいました。私はそれを聞いて、とても
かなしくなりましたし、さく、てあげたいと思いました。

原爆がようがされて、3000℃もする中にいた人たちは、苦しんだと思いま
したし、水がいっまにふっとうしてしまっただけの事を聞いて、びっくりしま
した。また、死者が、5人に2人が死んでしまっただけの事を聞いてもおど
ろきました。

60kgのウラニウムが詰め込まれたばくだん「リトル・ボーイ」の中で、ゴルフボール
くらい(1kg)のウラニウムだけがばくはりました。それを聞いて、たった1kgた
けで、広島を粉々にしてしまっただけだから、もしも全てはくはっしてしまっただけ、
日本全国に原爆のえいぎょうがでてしまい、もっと死者の数が増えてしまっ
と思ったり、もしかしたら私たちは産まれてこなかったかもしれません。

原爆のもたらす被害、死者の数はとてつもない数です。しかし、私たちはそんな悲し
しみや苦しみを胸に、原爆ドームとともに、原爆を忘れずに生きていきたいです。

原爆先生の授業を受けて

(田邨 美桜)

私は、原爆先生の授業を受けて、教科書では絶対に知れないことをしました。1つ目は、原爆を落とす候補が六つもあったことです。1つ目 広島、2つ目 小倉、3つ目 長崎、4つ目 横浜、5つ目 新潟、6つ目 京都、最後は広島、小倉、長崎の3つになっていても候補があったのか3つになっていたことを初めて知りました。原子爆弾投下都市の条件が1つ目 直径5kmを超えること、2つ目 平野であること、3つ目 空襲がなかったこと、3つの条件をみたした場所が広島、小倉、長崎だったことを知ってすこびらくりました。原爆は約4km手前で投下されていて、4kmほどはなれているのに、投下目標地、相生橋にきれいに落とされていて、すごい技術だなと思いました。原爆が投下されると、空気は真空になって、真空地帯はくもかきのような形になることを知り、それだけ原爆は怖いということを知りました。小学校でしか、こういう授業は受けられないと思うので、原爆のことをくわしく知れてよかったです。動画を見て、原爆を受けた地は、このような

被害を受けたのだと矢口、よりいっそう怖くなりました。
でも、原爆のこと、原爆の条件、原爆候補、投下された
原爆の名、いろいろなことを矢口でうたひからたです。
本当に原爆のことを矢口でよかったです。

原火暴先生の授業を受けて

(別部菜乃羽)

私は原火暴先生の授業を受けて、改めて原火暴はおそろしいことを感じました。原火暴が7000ともあるとは思いませんでした。太陽よりも熱くてすごいです。原火暴で14万人も人の命をうばってしまっておそろしいものです。全身真黒にこけている人がいたり赤に染っていた人もいたと聞いて、もし自分が会ったところであり、先生のお父さんはそのことを体馬金にして、びっくりしました。ぐぐぐオを見て一瞬間で黒に町が染っていき、もくもくと原火暴雲が上空までいっていき、びっくりしてわかった。このときもありません。

原火暴を落とす候補になった都市も六つあってびっくりしました。

私は原火暴トウヤが原火暴資料館に行きたことかありません。たか、あまりくわくありませんでした。けれど、原火暴先生が来て原火暴のおそろしさや、原火暴の重さなどいろいろ知ることができて、少しはくわくなくなりました。

私はもう二度と人なよらなことはなしてほ

しくありません。

急いでおなか坂小に来てくれてありがとうございました。

原爆先生の授業を受けて

(金子玲和)

今回、原爆先生の、話を聞いて日本の、みんなが
ができることができました。

今まで原爆は絶対に、使えはならない物だ
と、思っていたけれど、あらためて話を聞いたら

こわくなりました。サトルボーイは、はくはつ
した時の原爆の中心部が100万°にもなるというこ

とをし、ここまでの力があるとは思いませんでした。
地上に行っても3000°の熱線がはくはつ

になつた人は、よく生きていたなと思いました。

いつか原爆資料館、広島平和記念公園

原爆ドーム、長崎原爆資料館です。

原爆先生の授業を受けて

(西村 咲)

僕は、病気のつづいで途中でまひしか見られなかったけど、なんとしたく原爆先生の話を理解できました。

僕が途中で入ってきたのは、ちょうど原爆が打ち落とされた周辺の温度の説明でした。

爆発した近くの温度は約7000°で爆発した周辺では約3000°と言っていたのを覚えていますが、そんな所に戦争がいちたうと考えるだけで、体がふるえました。

それがいちたうし、原爆先生の資料や、原爆だんのお話を聞いて、いっしょに命を大切にしようと思いました。

原爆先生の授業を受けて

(河野 純也)

私は、この授業を終えて改めて戦争のおそろしさを知りました。

私は原爆が投下された後に、人々の焼けただれた体がかがはがれたり、
したりうじ虫が鼻の口に入っていたのは、ちょっと気持ちわるかったです。

原爆ドームの前の方が、すく分かったり、しました。

とくに、私は川の中に何人もの死んだ人たをかいたのは、可哀
そうだなと思いました。

最後の5分間の動画を見て話を聞いて、どれだけの人が亡く
なったかが分かりませんでした。

あとは太陽が6000℃で原爆は7000℃っていう太陽よりも、
原爆の方があついなということが以外でした。

今日は、寒い中来てくださりありがとうございました。

これからも皆さんの学校に原爆の大変さを伝えてくださり
ありがとうございました。

原爆先生の授業を受けて

(長崎 由來)

私は、原爆先生の授業を受けて、平和の大切さをもっと知りました。
戦争は、人を苦しめたり、人をへんにすることだ"ということも
知りました。

特に、今の原爆ドームに、原子爆弾が落とされた時の人々の
悲しみとにくしみか"うまれた"と思"います。

原爆先生のお父さんが体験したお話では、原爆のせい"で、"体全体
が"焼けど"した人が"原爆先生のお父さんたち"単体"に手をさしのべて"にすけ
て"おかん"で"いる人に手をさし"の"い"手を取"った時、その人の"ひ"ふ"か"へ"る"と"は"か
れ"お"ろ"た"と"き"の"手"の"か"ん"じ"く"それ"か"今"で"も"か"め"れ"ら"れ"な"い"と"い"う"の"は"、"今"ま
で"感"じ"た"中"で"も"ひ"ど"か"た"と"い"う"こ"と"だ"と"思"い"ま"す。

そして、とうして広島と長崎に原子爆弾が"落ちた"の"か"も"わ"か"り"ま"し"た。

あ"う"た"め"て"平"和"の"大"切"さ"を"し"り"ま"し"た。

原爆先生の授業を授けて

(牧野在喜)

ほくは、原爆先生の授業を受けて、自分の授業では教えてもらえないことも教えてもらえたのです。話を聞いていたらふつうに生活していたときにきゅうに原爆がおちてきて何人その人がなくなってしまいとてもかなしい人生だと思いました。もしあのいかの原爆が東京に落ちると考えるととても怖いことです。最後に見たビデオでもくるしくかなしかったんだと思いました。なのでこれから生活にもきをつけていきたいと思いました。

原爆先生の授業を受けて

(菅井 堀真)

ぼくは、この授業を受けて、とれだけ人の命が大切か、ということ。そして戦争の大変さがよく分かりました。

原爆とは、何人も人を殺してしまふ全体に使へないもの。このようなものがある地球にはたくさんあります。今までの地球と、未来の地球のことをよく考えて原爆を使わない。そして戦争をこの世からなくすことが大事だと思います。

戦争でなくなった人のことは忘れてはいけない事実。なのでこれからそのことを心も頭に入れて生きたいです。そして戦争をなくして平和な世の中にしたいです。

原爆先生の授業を受けて

(東館 燦)

二時間の特別授業で原爆の話をしてくれて、ありがとうございます。社会の授業では知らなかったことがいろいろ聞けました。池田義三さんが、傷だらけの人のうでをったんだとき、皮がはがれてしまった話を聞いたとき、すごく痛痛しいと思いました。原爆のリトルボーイが47もあっておどろきました。地上600mはなれたところで爆発して、その中心が7000℃だと知ったときびっくりしました。太陽が6000℃で太陽よりも熱くて、とても想像ができませんでした。死亡率が40%で5人に2人、原爆で死んだとゆうところで原爆がどれほど大きいものかよくわかりました。今回、原爆先生が原爆について、教科書にはのっていないことを話してくれて、原爆のこわさやおそろしさ、苦しさを知ることができました。今の世の中があたり前だと思っただけで原爆を受けた人たちは、何事にも必死だったと思います。私はこれからは原爆のことをわすれずに一生けん命、生きていきたいと思いました。原爆の話をしてくれてありがとうございます。

原爆先生の授業を受けて

(柳原萌花)

私が原爆先生の授業を受けて感じたことは、
3つあります。1つ目は戦争は絶対にしてはなら
ないということです。90分間池田さんのお話を聞
いて、戦争ほどおそろしくて、さみしくなものはないことを
知りました。たった1回の爆発で14万人もの人が
なくなるといふことは日本人として知っておくことだと思
いました。2つ目は原爆の1リョク、1すごいとい
うことです。リトルボーイという原爆が時速300km
で飛んで来、それは太陽よりもあつというのには想像も
つかないほどのまじうなだと思ひます。3つ目は日本に
原爆が落とされたことを忘れてはならないといふこと
です。原爆ドームは世界遺産にも認定されています。
戦争を体験したことを語りつづける人が年々少なくなって
いるので、学習をした私たちが次の世代の人たちにも
教えていってあげることが大切なのだと思ひます。

原火暴先生へ

(吉川 和)

原火暴先生がおしえてくださったことは多くの
知らない事ばかりでした。

教科書では8月6日に広島9日に長崎に落と
した...としか書かれていなかったけど、
その大事な事実が本当は炸かの工場所
に落とすかと思っていたことも初めて知
りました。太陽よソ1000とも上回る
ことなど、113りのお知らせで

初めて戦争のひさしを考へることが
できました。ありがとうございました。

このことは一生おすれおに平和の
大切さをおすれなようにしたいです。
原火暴で多くの人の命がうはおれ
てしまった事、後11症など、たくさんのお友書が
出たことなど、もおすれおに。

「平和」を大切に生もてほしい
です。

113んな事を知られて楽しかったです。
ありがとうございました。

原爆先生の授業を受けて

(太田 さくら)

原爆先生の授業を受けて一番印象に残ったのが、二つあります。一つ目は前先生からも聞いた事があった、焼きこげたひらひらしたスルツととれてしまうと言うことです。

私はそんなひどい思いをするのなら、一しゅんで死んじゃった方がましなのかな。と思いました。二つ目は、広島市人口が35万人もいるのに、死者が14万人。とてもかわいそうだなと思いました。その死亡率40%もある。と考えるとすごくかわいな。と思いました。

原爆先生の手受業を受けて

(長竹 義治)

ぼくは原爆先生の話を聞いて戦争がこれだけあつた、
五理由が三つあります。

一つ目は原子爆弾はにおとされたのは広島と長崎
におとされたことです。

ぼくは資料をいろいろ見ると昔は戦争がある時代で、現在は
ない時代なので昔の人は昔しいよとおお父は戦争に行かなくて
いかなかった時代でした。

二つ目は空から原子爆弾が途中で時速300km飛んでいくのでぼくは
こおおつたです。東京タワースカイツリーとほぼ同じ高さで100万
まで落ちていたけどもすごく熱い温度だからでもやける温度
なんですね。

三つ目は池田さんのことについて書きます。

池田さんは17歳のころに戦争にあつた町を見に行つて戦争にか
い行ってとになつた人なとおもいました。

そして池田さんは博物館に行つて見に来昔のことを見せ
池田さんはつちい気持ちになつたきました。

ぼくももし戦争があつたらもうすべ家もなくて、大空になつてしま
した。

原はく先生の授業を聞いて

(星野 帆 香)

私は原はく先生の話を聞いて、改めて原はくについて
思いました。前から母に原はくについての話を聞いてい
て、これいものだと分かっていました。でも、今日、原はくの
話を聞いて、改めてこれを感じました。特に、「ビデオ
を見たとき、しびんとして人が消えるのも本当におそ
ろしいものだと知りました。それが、これだけ
おそろしいだけではありませんでした。原はく先
生のお父さんの話を聞くと、ますますはらいぐんだと
思いました。お父さんはいろいろな方の死体を運ぶ
にげたくはる気持ちをもつし、お父さんがいる
いる姿が、話だけで頭につかんでいきます。本当に
勇気がある人でした。お父さんだけでなく、他の人も
も本当にすばらしく、勇気がある方たちだと
思います。私が原はく先生のお父さんの立場
場たたら絶対、にげたくはると思っています。自分
だけが助かればいいと思っていると思えます。
後はんのお話は、資料を見て又王をやることだ
たのですが、当時の原はくのことだ、たり、温度
をくわしく、分かりやすく、こころに教えることで

とてもありがたかったです。その中でも特におどろいたのは原はくの温度です。原はくの温度は七千度で太陽は六千度です。ということは太陽よりあついです。そのお話を聞いて本当にびっくりしました。そんな温度のものが穴から落ちるまでならわいに決まっていると思いました。

もう一つ、初めて知ったことがあります。初めて知ったことは原はく雲のことです。今まで原はく雲というのは聞いたことがなかった形まは知らなくて今日初めて知りました。サノコの形をしているのを初めて知って勉強になりました。

今日の学習をも通して改めて原はくは絶対に使わないといふことを世界に広めて世界中がみんな原はくのことやそのあつさを知らぬもって絶対に使わなことを持つてほしいと思います。

原爆の授業で分かったこと

(米田 光織)

私は、今回の授業を通して、原子爆弾のこりた
を知りました。そして、話を聞いてもう絶対にそん
な爆弾をつくってはいけな^いなと思^いました。原子爆
弾で私がいけ^ない^なと思^いたことは、投下したらも
う何にもなくなってしまうことです。広島の実際
の写真をおぼろおぼろと見ました。建物がすべて
くずれていて、人もいない。何にもない写真だっ
たからです。ほかのものでは、雲がもくもくと上がっ
ていて、はくかの^{ある}写真もありました。それら
を見てとてもつらかった。た^んた^ろう^なと思^いいま
した。ほかにもおぼろ^{いた}こと^がありまし
た。それは原子爆弾の爆心地直下とその付近
が3000、24000^じになる^{こと}です。
そんなのがおちてきたらひとたりもい^な
^いな^いと思^いました。だからもうそん
なあ^ない^な爆^弾をつ^くってはい^けな^いと思^い
ました。そして、その被害のこともせ^いれ^ては
い^けな^いと思^いました。

原爆先生のお話^①

(丸山・健之介)

ぼくは今日(十二月二十五日)²⁵³二、三時目に、原爆先生のお話を聞きました。そのお話は想像をよめるかにせざるものでした。それは先生(池田さん)のお父さんのお話でした。池田義三(先生のお父さん)さんが17歳で軍に入ったことから始まります。そして、原爆が千九百四十五年八月六日広島県におとされたときのセツナ、ひんげ、言葉にでない程のおそろしさをぼくたちに伝えてくれました。その中でもぼくが心に残ったことが3つあります。1つ目はこの広島での原爆での死亡率です。なんと死亡率40%約5人に2人が亡くなっているのです。2つ目はアメリカの原爆の落下目標地点が最初は京都下、大田ということでした。けれどもなぜ広島と長崎になった理由は世界的、将来的な歴史的けんごう物が山ほどあるから、だそうです。3つ目は池田さんとお父さんで10年前、原爆資料館に行ったとき、かんな人間の人形が置いてあるところを見たと、ぼくといふことが

15
15
ぼいばいれられせん。それは、「お、おにすまる
といいたたてです。ぼくの想像だと思ひますが、
自分のその人形と比べものにならな程、もと
ひんだ、たんだなと思ひました。そのそのするた
けでもとも、ししてかます。また、たんだ、た
がないものも、といふ人にかかてあげた
いです。

戦争について

(小松 淑鈴)

今回この戦争のことを聞きました。戦争は私が想像をしていたよりもとてもおそろしいことだと感じました。原子爆弾を落とされた地域は、いんとして何もかもがなくなってしまうとわかりました。原子爆弾は、熱線、衝撃波、放射線がものすごい力を持っています。落ちた瞬間に地上は三千年にもなるといいます。衝撃波は一回もあつたといふです。一回目は落ちた時、二回目はその衝撃がはね返った時です。放射線を浴びた人は、原爆病という病気になつてしまふといふです。原子爆弾はあらためておそろしいと感じました。戦争はたくさん人の命をうばつてしまふます。人の心も傷つくと思ひ、絶対文に一度と起すにはしけなないことだと感じました。起すなうし、たうしは、もういづつがなうと思つたので、それをうらなうも、伝えるいかなうとだめだと感じました。

原爆先生のお話を聞いて

(白井ちくら)

私は今日の原爆先生のお話を聞いて初めて、
知ることがたくさんありました。特におどろいた
のは、たまたまのねんぷりので広島が焼まわ
されたという話ですが、「ボール」からこのねん
ぷりでも、すごい力があるんだなと思いました。
他にも人がいっしょにして、もえてしまったお話を
こねかたです。衝撃波が音速よりも速くて、
建物もこんななになってしまっただけで、広島市
人口35万人に対して被爆者数が24万人と半分以上
をいれていておどろきました。しかもその中
で死者数4万人もいて2万人はいっしょにして
もえてしまいました。熱線と衝撃波だけ
の力でこんな出来るなんて、びっくり
しました。ビデオで建物があったところ間にも
おれていておそろしかたです。今回のお話
で原爆のこねかたを改めて分かりました。

広島原爆を知って

(山本 煙太)

ぼくは今日お話を聞かずに、田舎に残るつもりが三つあります。

一つ目は、太陽より熱い七〇〇〇度の球体が、地面から約六〇メートルの地点にあるということです。もし自らの上を六〇メートルの地点に約七〇〇〇度もの球体があたるとしたら、熱気は想像できるけど、どのような感じなのかは想像できません。太陽がこのまゝで暑さが感じられるのに、太陽が自らの近くにせきついたら、何をどのようにして対処すればいいのでしょうか。すごく恐ろしいことです。

二つ目は、広島原爆資料館の木やじりしている人を再現している人形を見て、「きれいな子ね」といった義三さんの言葉です。義三さんが「きれいな子ね」といった意味をぼくは分かりました。みんなにうまくと再現している標型でも違うという事は、実際はもうおろがでひさんだということが、義三さんの言葉で分かりました。

三つ目は、人の姿が黒いしみで残ったということです。原爆の衝撃波で、人があのようなありさまになっってしまうことを初めて知りました。

ほかにもまだ覚えていることがたくさんあります。ぼくには、

たくさんの方が、戦争は絶対にしてはいけない、という意味
を初めて分かった様な気がしました。

特別授業を受けて

(栗原 美海)

私は特別授業を受けて戦争(原爆)のおそろしさを知りました。その中でも私が心に残っている事が二つあります。

一つ目は、ドラム宮とトラックがおくれて来た事で助がたということでした。二つの事がすこしでもちがっていたらと思うと、すごく怖くなりました。あと、とがしと光った時、訓練のせいがかでたと言っていたことも心に残りました。訓練をするのは大切な事なんだと改めて思いました。

二つ目は、救助に行くところ、うに傷をおた人が「助けて」「兵隊さん、助けて」と手をしのべてきた、というところです。その手を兵隊さんたちはひいてあげられ、みんがむけてのほれないやのほれても傷があた、たりして、けんでいる人などが助と聞いて、想像したら、心がつぶされるような苦しみになりました。兵隊さんたちが先に進んで行くと、人の形がなくなってしまうというのほ、そのまににあてしま、た人は苦しかたり、痛かていたりする姿を見た兵隊さんが、悲しい気持ちになってしまうのがお話を聞いていて、よく分かりました。私はその場になくて、どういうけうも、うだ、たのが写真などでしか見たことは無かだけれど、話を聞いているだけでも大変だ、たり、苦しいけうも、うだ、たのが分かりました。

今は戦争が起きないように平和を目指している日本だけれど、昔ほ、んな事になってたんだと思いました。この戦争のおそろしさをわすれないようにしていきたいと思いました。

原爆のお話をまゝに

(中井里枝)

社会での勉強は原爆について学んだけれど、今回、お話を
きいて教科書では伝わらないお話を学びました。

原爆は怖いものと思っていました。でもお話をきいて

「怖いだけじゃないんだ」と思いました。そして、助かるのも

運ばないと、きせきなんだとびっくりしました。どうも缶があたり

トランクがおくれてきたり、電話局の地下のトイレにいたり、本当

にきせきなんだと思いました。他には川に人が浮いていたり、

体育座りで死んでいたり、想像するだけで怖いです。

今、こうして生きていくことが平和なんだと改めて

感じました。もう戦争がおわったからもういいやではなく、

おわらばこそ、もう一度、考えていかなければいけないんだ

と実感しました。明日、戦争になるかもしれない、来週、原爆

がおちるかもしれないとは思うけど、100%はないとは

いけません。そう思うと、生きていくのがやっいです。

死の恐怖と戦った兵士さんなどはとてもすごいんです。

もう絶対、戦争などはないはずと語りついで

いかなければいけないなど、思いました。

原爆先生の話を聞いて……

(上田 澄)

話して原爆先生の話を聞いて原爆が恐ろしい
ものだと感じました。

激しい光と激しい音が打つ死者も出るよ
うな感じがあの爆弾一つでつくられると思
いました。

話を聞いてから1ヶ月ほど井口が16
1井口が16が爆発したことで死者が大
量に出たといいますが井口が全て爆
発したのも大変な感じがすると思
います。全部が爆発したのではな
いかなと思います。

そして、今の生活がどれだけ豊かか
ないか。

原爆先生の特別授業で感じたこと

(岩 陸 優 希)

私は原爆先生の特別授業を受けて本当に戦争と原爆は怖いなあと感じました。

私はこの授業を受ける前はあまり原爆には興味がありませんでした。たけど今日の話聞いて自分も原爆と身近であるなあと思いました。

私は今日話を聞いて一番心に残ったのは原爆が落ちた時のことと原爆が落ちた後の人々の様子、周りの様子についてが一番心に残りました。人が一生懸命自分の命を守ろうとするのがどんなに大変だったのが分かりました。周りの様子もとてもびっくりするものが分かりました。

今日話を聞いて私は二度とこんな風にしてはけないなあと思いました。命一つがどんなに大切分かりました。

原爆死の特別慰霊式 (感想)

(藤田 通)

ぼくは、今日の講話を聞いて、心の中がぐちゃぐちゃした。
これは、戦争のおそろしいことだ。ぼくは、戦争を体験
したことがないので、今、戦争がなくなったからぼくは何も
かかるとおもいますが。そして、原爆の死した人が、かたがた
は、原爆死した人がおそろしい。なにかうんと早く、死なな
かた、今日の講話を聞いて、心の中がぐちゃぐちゃした。
心の中がぐちゃぐちゃするだけで、おそろしい。そして、わが
100万度、うのがびくびくした。たまたま、3000度
うに、そのあとの何倍もあつておどろきました。
そして、原爆の、100倍もある、爆弾が、1万5000
かたがた、びくびくした。

原爆先生の特別授業

(梅木 透花)

今日90分間の原爆先生からのお話も聞いて、私達が想像しているよりも何倍も辛い大校だ。たんだなと思いました。

被爆者の方のお話で、大木なやけしやけかをして、いることを聞いて想像するだけじゃなく、するし、たえまねに痛さだ。たんだなと思いました。

私はもちろん戦争な経験したことな。しかし想像もできな。いもし戦争が起これし、ても信られな。たんだなと思いました。でも今の時代にありえな。いことだから、戦争を経験した方からお話を聞いて、想像だけ、戦争の大校や、悲しさを理解することが大切なのかなと思いました。

これからもしかしたら戦争が起これるかもし、れな。し起これらな。かもし本は、せい、今日聞いたお話をたえまねにしたいな。

広島戦争原爆

(福島 潤一郎)

この日、午前8時15分、広島市に原爆が落とされた。この瞬間、広島市は火の海となり、死者は約35万人に達した。この原爆は、人類史上初めての核戦争であり、広島市は「原爆の被害を受けた都市」として知られるようになった。

原爆の落下後、広島市は壊滅的な被害を受けた。死者は約35万人に達し、約90%の建物が壊滅した。この原爆は、人類史上初めての核戦争であり、広島市は「原爆の被害を受けた都市」として知られるようになった。

かたし 本邦に於ては 本邦に於ては 本邦に於ては
本邦に於ては 本邦に於ては 本邦に於ては 本邦に於ては
本邦に於ては 本邦に於ては 本邦に於ては 本邦に於ては
本邦に於ては 本邦に於ては 本邦に於ては 本邦に於ては

お話を聞いて

(片山目白)

私は原爆先生のお話を聞いて、原爆(原子爆弾)がおよ
ろしいものだと感じました。原爆は人々を苦痛にお
わせるものだと思えるだけで、ゴッとし、被爆者が
かわいそうに思えてきます。原爆先生は、原爆で
たくさん人の命が失われたことを説明してくれまし
た。広島にいた人のうち二人が死んでしまったそ
うです。たいてい人な数です。でもその多くの命
をうばうのは、同じ種類の人間です。人が人の
命をうばうことはとても悲しいことだと感じいま
す。また今、生きている人でも大量の放射線
をあげ、原爆状に苦しむ人もたくさんいるよう
です。人間が人間を殺し、苦しめる、なんて悲
しい出来事でしょうか。同じ人間なのだから、
太平洋戦争のような大きな争いは、もつぜ、
たいていしてほしくないと思いました。人が人を
殺すようなまねはしてほしくないな感じです。
これからは、世界中の一人一人が戦争の
ひんたを覚えておくべきだと原爆先生
のお話を聞いて思いました。

話を聞いて感じました

伴 遼河

ぼくは、今日源爆の話を知って、戦争はいいことだと思いましたが。教科書からはあまりいい話を聞きななだけれど、実際に話を聞いてみると、やっぱりいい話を聞きました。源爆ドームなどは、いい話だけれど、これくらいホロホロに感じた分らないけれど、話を聞いて、やっぱり大変だ、たくさん思っています。映像を見ても、絶対に戦争は、起ってほしくないと思いましたが。

池田さんは、当時(何年)は、やっぱり大変な思いをしてみても、市民をだすけて、こころを思っています。なんでも同じ生き物なのに、争いしてしまうのが、不思議に思っています。みんなが争い、それなら、いざや、すり合えば、もう戦争にはならないと思えます。今も北朝せんが、三サイルを作っている、でも、たいは、うたな、こぼは、いびす。今日聞いて、本当に、いいことだと思いましたが。あんなに、広島が、ひびき、を、うけたのに、あれでも、しかも、あんなに、ひどいことになりました。ウソが、60%、全部が、全部、いなくな

2 本 第 二 段 々 々 也 又 田 二 亦 二 也

3 田 二 亦 二 也 又 田 二 亦 二 也 又 田 二 亦 二 也

戦争とこのものは

(村田 琢吾)

ぼくは池田の皇徳の語を聞き、この町にまた、池田さんの父池田義三さんは牛才という名で軍隊に入隊したという事は、それほど日本は戦力が無い状態だったと聞いています。

八月六日に原子爆弾が投下された広島では原爆ドームが有名だと聞いて、ただ二番おかしなものは古建築物がある京都だということが初めて分かりました。

広島に投下された原爆の名はリトルボムといって三・三Mしかないので約四センチ重さです。いとおそろいでした。しかもその土地面積は二千六百平方メートル、約七センチです。太陽の表面は六千キロ。なので太陽よりも千倍高い暑さが日本の六百メートル先に太陽があたからい暑がたんだ。これも聞いたことがアツアツとしました。

広島市の原爆ドームの元の名称は広島産業奨励館という名称だったそうです。この広島市の原爆により、広島県

人口三五十万人からの犠牲者数二四万人
死者数四万人です。死に率は約四
一七パーセント、犠牲率は七十九一七パーセント
だそうです。

ほんとは戦争といふものは実際には見た
にたがたから血汗から戦争といふ
えらゝ言ふものは何もなければ戦争は
たゞはタタタといふは血汗をばらばら
持て言ふるにたゞの田舎だ。

日本を守つてくれた人々にはこのおま
へに刻めたい生きた人間の田舎だ。

戦争のふたつを知って

(大賀拓哉)

原爆や戦争の悲しさを知ってほしいから
歴史をくり返してはいけないこと
子どもたちが戦争のふたつを知り、次の世代に戦争
のこころを伝えること、それが使命だ
「目に思い、歴史をくり返してはけない
こと、思い、それは一人一人の命を失くして
消してしまつていくなことを人間がつくつて
後、人間を殺してしまつていくな歴史を
くり返してはダメだ」と思つてこのことを
思いおこした。

「目に思い、戦争のふたつを知り、次の世代に戦争
のこころを伝えること、それが使命だ
歴史をくり返してはいけないから戦争はどんな
悲しく残つていくなことを次の世代に伝える
平和な世の中へと一人一人が変えてい
くという心持を持つて、戦争のこころを
子どもたちの頭に植え、子どもたちは
新しい歴史へ一歩ずつ進みたい
である。